

令和6年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育ステージ	早期：収穫終期 早植：糊熟期～収穫期 普通期：乳熟期～糊熟期
生育概況	早期：「コシヒカリ」の成熟期は平年より4日早まった。白未熟粒や胴割粒の発生で品質は平年より劣り、収量は平年並～やや少ない見込み。 早植：「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の成熟期は平年より4～7日程度早まった。出穂後の高温の影響で白未熟粒、胴割粒による品質の低下が懸念される。 普通期：「あさひの夢」の出穂期は平年並～2日程度早まった。紋枯病、もみ枯細菌病がやや多い。

1 気象経過（前橋地方気象台の気象データ、9月は第3半旬までのデータ、参考資料参照）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+3.2℃	+0.9℃	+1.4℃	+2.6℃	+2.3℃	+3.5℃	—
降水量(平年比)	98%	106%	114%	74%	65%	161%	—
日照時間(平年比)	87%	109%	139%	116%	124%	148%	—

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培（6月15日以前の田植）

早期栽培「コシヒカリ」の成熟期はともに平年より4日程度早まり、収穫は98%程度のは場で完了している。出穂後の高温等の影響で白未熟粒や胴割粒が見られ、平年より品質が下がる見込み。収量は平年並～やや少ない傾向。

早植栽培「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の生育ステージは糊熟期～収穫期となっている。出穂期は、平年より3～5日程度早く、成熟期も4～7日程度早い。中山間地はさらに早い傾向であるが、一部高冷地では平年並みとなっている。「あさひの夢」の生育ステージは乳熟期～糊熟期で、出穂期は平年より2日程度早く、成熟期も早まる見込み。高温により不稔が一部で見られ、7月下旬から8月上旬に出穂したほ場では、白未熟粒による品質低下が懸念される。

イ 普通期栽培（6月16日以降の田植）

「あさひの夢」の生育ステージは乳熟期～糊熟期。生育は高温により順調に進んでいたが、8月下旬～9月上旬に曇雨天が続いたことでやや停滞し、出穂期は平年並から2日程度早まる程度となった。成熟期は平年よりやや早まる見込み。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

ア 早期・早植栽培

紋枯病が多く、上位葉まで進展がみられ、紋枯病由来の出すくみや倒伏も見られている。内穎褐変病、斑点米カメムシ類がやや多い。中山間地域では稲こうじ病や8月下旬～9月上旬の降雨による倒伏が散見されている。早期では高温の影響で白未熟粒、胴割粒の発生が多く、早植でも同様に白未熟粒、胴割粒による品質の低下が懸念される。

イ 普通期栽培

紋枯病、内穎褐変病、もみ枯細菌病、斑点米カメムシ類がやや多い。8月下旬～9月上旬の降雨による部分的な倒伏が見られる。

(3) 作況ほ等の調査結果等

ア 作況ほの調査結果（表1参照）

県平均の出穂期は8月4日（平均比-3日）であった。出穂後15日の穂数は381本/㎡（同103%）、籾数は28,992粒/㎡（同99%）であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

(ア) 稲麦研究センター（6月23日移植）

「あさひの夢」の出穂期は8月27日（過去10カ年平均比-4日）であった。

(イ) 東部地域研究センター（6月1日移植）

「あさひの夢」の出穂期は8月16日（過去10カ年平均比-2日）であった。

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後40日調査		出穂期 月日	出穂後15日（暫定）		
		草丈 cm	茎数 本/㎡		カ所数	穂数/㎡	籾数/㎡
県	6/6(0)	62(105)	461(100)	8/4(-3)	10/15	381(103)	28,992(99)
中部	6/15(0)	70(111)	471(110)	8/9(-4)	3/4	385(105)	31,956(108)
西部	6/11(0)	67(104)	462(106)	8/3(-2)	3/4	395(105)	31,312(97)
北部	5/22(+1)	45(98)	467(89)	8/3(-2)	3/4	378(98)	24,756(92)
東部	6/16(-3)	77(109)	394(94)	8/24(-2)	1/3	339(100)	25,148(94)
早期・早植	5/28(0)	58(108)	464(95)	8/4(-3)	7/10	384(101)	28,487(102)
普通期	6/21(-1)	69(102)	456(111)	8/26(-2)	3/5	375(107)	29,936(92)

表1 水稻作況ほ調査結果（地域別・作期別）（ ）内は平年比

- 1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。
- 2) 移植期欄の（ ）内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。
- 3) 出穂15日調査結果は、調査時期となったほ場のみで、カ所数欄は「調査カ所／設置カ所数」を示す。
- 4) 早期・早植：6月15日以前の田植。普通期：6月16日以降の田植。
- 5) 桐生市は担当農家変更のため、県、地区、作型平均から除外した。
- 6) 館林市は移植時期が大幅に遅れたため、県、地区、作型平均から除外した。

(4) 作柄のまとめ（表2）

各地域の作柄は、中部「並」、西部「やや良～並」、北部「並」、東部「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表2 地帯別作柄概況 () 内は農畜産課・地区農業指導センター

地域別	作柄	概 況
中 部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	・早植栽培：糊熟期～収穫期。8月下旬は曇雨天が多かったものの、前進傾向は変わらず生育は5～7日程度早い。紋枯病の発生が多く、上位葉まで進展がみられ、紋枯病由来の倒伏や出すくみも散見される(中部)。降雨による部分倒伏が散見される(渋川)。 ・普通期栽培：乳熟期～黄熟期。出穂期は平年並～3日程度早まった。もみ枯細菌病発生が多い(中部、伊勢崎)。高温による品質低下が懸念される(伊勢崎)。
西 部 (西部) (藤岡) (富岡)	並～ やや 良	・早植栽培：糊熟期～収穫期。高温により成熟期は早まっているが、地域により差があり、平年並～5日程度早くなっている。紋枯病が多い(西部)。高温による不稔等が散見され、白未熟粒等による品質低下が懸念される(藤岡)。降雨により、一部ほ場で倒伏が見られる(富岡)。 ・普通期栽培：乳熟期～糊熟期。出穂期は平年並～3日程度早まった。小麦跡作付ほ場で強還元によるガスの発生・生育不良が散見。台風後の強風により籾ずれが見られる(藤岡)。紋枯病、内穎褐変病、もみ枯細菌病、斑点米カメムシ類が平年よりやや多い(藤岡)。
北 部 (吾妻) (利根 沼田)	並	・早植栽培：黄熟期～収穫期。成熟期は4～7日程度早まる見込み。高冷地では平年並(利根)。穂いもち、内穎褐変病、稲こうじ病及び斑点米カメムシが散見される(吾妻)。稲こうじ病やなびき、倒伏が散見(利根)。
東 部 (東部) (桐生) (館林)	並	・早期栽培：収穫終期。成熟期は4日程度早まった。収量は平年並～やや少なく、高温による白未熟粒等が多く平年より劣る見込み(館林)。 ・早植栽培：糊熟期～収穫期。成熟期は3～7日程度早まった。8月上旬までに出穂したほ場では高温での白未熟粒等による品質低下が懸念される。成熟が早まったことから一部で刈遅れのほ場あり(東部)。一部のほ場で葉いもち、穂いもち、枝梗いもち、紋枯病が上位葉まで進展している株が見られた(桐生)。収量は平年並と見込まれ、紋枯病・内穎褐変病、斑点米カメムシ類(イネカメムシ)、イナゴ類がやや多い(館林)。 ・普通期栽培：乳熟期～糊熟期。出穂期は2～4日程度早まった。紋枯病、内穎褐変病、もみ枯細菌病がやや多い(東部)。収量は平年並と見込まれ、紋枯病・内穎褐変病、斑点米カメムシ類(イネカメムシ)、イナゴ類がやや多い(館林)。

3 技術対策

- (1) 落水までは間断かん水を徹底し、根の活力維持を図る。落水は出穂後30日以降を目安とし、その後、土壌が乾く場合には、必要に応じて走り水を与える。
- (2) 台風襲来時やフェーン現象などの高温・乾燥の強風時は、風が止むまで深水管理とする。
- (3) 登熟状況を確認して適期収穫を徹底する。適期の判定は、出穂期後の積算気温、帯緑色籾歩合、籾水分などにより総合的に判断し、刈り遅れのないようにする。
- (4) 倒伏した場合は、速やかに排水し、成熟状況を見て早めに収穫する。収穫期に穂発芽等が認められる部分は可能な限り別収穫とし、品質低下を防止する。
- (5) 自脱型コンバインによる収穫作業は、籾の損傷軽減や作業能率の向上のため朝露が消えてから開始する。脱穀籾は変質しやすいため、収穫後は速やかに乾燥作業に移す。
- (6) 胴割粒などの発生を防止するため、高水分籾の急激な乾燥や過乾燥は避け、乾燥機の毎時乾減率をやや低め(0.8%/時以下)に設定する。
- (7) 架干し稲については、乾燥中の気象条件によっては穂発芽や胴割粒が発生することがあるため、乾燥後は速やかに脱穀する。
- (8) 調製は必要に応じてふるい目を使い分け、選別機の処理能力以上の粗玄米を流さないよう丁寧に行い、整粒歩合の向上を図る。稲こうじ病や斑点米が多い場合は出荷物へ混入しないよう特に丁寧に調製し、可能であれば色彩選別機を活用する。

- (9) イネ縞葉枯病対策および地球温暖化防止の観点から、収穫後は早めに耕起し、ひこばえを残さないようにするとともに、ワラの腐熟促進を図る。
- (10) 農薬等の使用状況の記帳確認を行う。

《参考資料》

